

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 09-025

PDCA	事務事業名	公共交通対策事業	部課等名	総務部 防災交通課 交通防犯担当	担当	浅井		
					内線等	286		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち						
		節： 第2節 都市基盤の整備						
		基本施策： 3. 交通体系						
		単位施策： (5) 公共交通の充実						
	根拠法令等	半田市公共交通会議設置要綱						
	対象・目的	少子高齢化や単身世帯増加など、時代背景から予測される移動重要の高まりを見据え、市民のくらしの足の維持確保を目的に地域公共交通の整備と利用促進に努める。						
	目的を達成するための手段・活動内容	市民の移動時手段の一つとして、公共交通バスの運行を維持確保する。地区路線バス「ごんくる」3路線の運行と市内乗合事業者の運行する基幹路線バスへの運行経費等補助を実施するとともに、利便性の確保のため、運行に関する環境整備や情報発信を図る。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①補助対象路線数		5	5	6	路線	
		②市民アンケート等ニーズ調査		1,319	1,545	5,569	人	
		③地域における話し合いの場		10	36	31	回	
		事業費		83,450	89,034	115,499	千円	
		人件費		5,226	5,793	7,563	千円	
		総事業費		88,676	94,827	123,062	千円	
		活動単位当たりのコスト		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①補助対象路線利用者1人当たりにかかる市費投入額		327.0	212.1	406.0	円/人		
	②半田市民1人当たりにかかる市費投入額		698.7	790.9	1,026.5	円/人		
	成 果	成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①バス利用者数	実績値	925	1,221	831	人/日	
			目標値	1,158	1,600	1,700		
			実績値					
目標値								
		実績値						
	目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更		
	事業の評価・課題	③休廃止の影響		大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
		B						
		平成30年3月30日に策定した「半田市地域公共交通網形成計画」により、同年10月に路線バスの大幅再編を実施し、再編後、路線改善や利用環境の向上に取り組んできた。 令和2年度には、バス停の待合環境の改善をはじめ、コロナ禍に対応しコミュニティバス車内における抗菌・抗ウイルス対策を実施するなど、バス環境の向上や利用促進を図った。また、令和2年10月には交通空白地域となっていた岩滑地区に地区路線バスB（岩滑小線）を導入し、新たな交通手段を確保した。今後も、継続的な課題となっている交通空白地域の解消に向け取り組んでいく。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	拡充推進 既存路線については、利用を促進すべく、バスロケーションシステムの運用やインターネット上の民間媒体への情報露出、地元バス会との協働による広報活動の推進を図る。また、引き続き、交通空白地域の解消を図るため、成岩東部、瑞穂地区に新規路線を導入するとともに、有脇地区では新たな交通手段の確保に向けた取組を進める。						
	令和3年度の目標	成果指標				目標値	単位	
		①バス利用者数				1,012	人/日	